

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
(1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づかれた開かれた学校をつくります。

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	児童支援部	子どもたちの主体的な活動を中心として自己有用感を高め、自分も相手も大切にすることを育てる取組みをさらに充実・発展させ、互いを尊重する子どもを育てます。	① 子どもたちの課題に即した道徳授業の創造に取り組む。 指針1 「道徳の時間」の充実
			② 「けが0プロジェクト」「なかよし活動」を核とした委員会活動・異学年交流等、子ども主体の生活づくりを進める。 指針2 体験学習の充実
			③ 地域や社会と関わる機会を増やし体験を通して多様な人々への共感を育む。 指針3 確かな人権感覚・意識の育成
			④ 「緑園音楽祭」「全校音楽朝会」を核とした音楽活動や「学校図書館活用」による読書活動を進め豊かな情操を育む。 指針4 豊かな感性や情操の育成

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

全体的に落ち着いて穏やかに生活している。また、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がみられる。地域からの協力もえられており、子どもたちも地域の行事には積極的である。しかし、次の点が課題として挙げられる。

- ・自分からすすんであいさつをすることが苦手である。 (コミュニケーション能力に関する課題)
- ・自尊感情がやや低く、自分に自信がなく自分の考えを積極的に話すことが苦手な傾向がある。 (自己に関する課題)
- ・人の話を進んで聞いたり、学校のきまりを守って生活することができなかつたりする傾向がある。 (他者に関する課題)

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

指針1 「道徳の時間」の充実

- ・全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。
 - ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、授業の創造に取り組む。
- 【視点1】

指針2 体験学習の充実

- ・「けが0プロジェクト」を核として委員会活動を活性化させ、委員会の提案より学校全体が取り組む。
 - ・「なかよし活動」や「クラブ活動」など異年齢集団活動をより自主的、意欲的に行うことができるようにする。
 - ・一人ひとりが見通しをもつことで安心して自分らしさを発揮し、自分をよりよく高めていく力を育むようにする。
 - ・子どもたちの興味・関心をもつものや必要感のあるものなど価値のある課題を設定し、PDCA サイクルで授業改善をはかる。
- 【視点3】
- 【視点4】

指針3 確かな人権感覚・意識の育成

- ・地域の行事等に子どもたちが参加できる等、子どもたちの自尊感情が育つようなかかわりを推進してもらうとともに、学校の教育活動にも積極的にかかわってもらうようにする。
 - ・Y-P アセスメントの支援検討会の実施により、学級の課題の改善や個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、教師が「だれもが安心して豊かに」過ごすことができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。
 - ・必要な子どもに対して個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。
 - ・一般学級の子どもは、授業や学校行事等で個別支援級の児童と一緒に過ごすことを通して、学び合いながら相互理解を深める。
 - ・姉妹校（ムーニーポンズウエスト小学校やラドバーン小学校）と交流して、日本の伝統・文化を尊重するとともに、異文化への理解を深めるようにする。
- 【視点6】
- 【視点7】
- 【視点8】
- 【視点9】

指針4 豊かな感性や情操の育成

- ・「緑園音楽祭」や「全校音楽朝会」を実施し、安心して表現することのよさを実感し、互いのよさを認め合えるようにする。
 - ・図書委員会の児童や保護者ボランティアによる本の読み聞かせや、図書委員会の読書啓発等から進んで読書に親しみ、豊かな感性を育む。
- 【視点10】
- 【視点11】

4 各学年・教科等の具体的取組

<p>第1学年</p> <p>道徳・・・児童の実態を把握し、各教科、学校行事との関連を図りながら道徳的判断力、心情を培う。</p> <p>体験学習の充実(生活科)・・・朝顔を中心に種から育てる植物の観察や世話を通して豊かな心情や態度を育てる。また、公園探検をしながら公共の場での活動のきまり、自然とのかかわりを大切にする。異学年、保育園との交流を通して人との関わりを充実させ、豊かな心情を育てる。</p>	<p>第2学年</p> <p>道徳・・・児童の実態を把握し、各教科・学校行事との関連を図りながら授業づくりに取り組む。</p> <p>体験学習の充実・・・野菜・虫を育てることや、小動物に触れる体験を通して、生き物を大切に育てる。また、保育園・幼稚園や1年生など他学年との関わりを充実させ、豊かな心情を育てる。</p>
<p>第3学年</p> <p>道徳・・・児童の実態や、各教科との関連、学校行事を見ながら、資料を精選して実践する。自分も友達も大切にできる温かい集団を育てる。</p> <p>体験学習の充実・・・植物・カイコを育てる体験を通して、生き物を大切に育てる。</p> <p>緑園音楽祭・・・1人ひとりがめあてを意識して、学年でひとつのものを創りあげる達成感を味わえるようにする。</p>	<p>第4学年</p> <p>道徳・・・相手の気持ちや立場を考えた思いやりの気持ちを育てる</p> <p>上郷宿泊体験学習・・・1人ひとりが見通しをもって自分の役割に責任をもつ。</p> <p>区音楽会（音楽祭）・・・1人ひとりが主体的に取り組み、学年でひとつのものを創りあげる達成感を味わえるようにする。</p>
<p>第5学年</p> <p>体験学習の充実・・・「委員会活動」「クラブ活動」「なかよし活動」等の異年齢集団での活動を通して、他者の豊かに関わられるようにすると共に高学年として主体的に取り組む児童の育成を図る。</p> <p>確かな人権感覚・意識の育成・・・道徳、日々の生活から良い行いの価値づけと共有、けがOプロジェクト等、様々な角度から自分も相手も大切にする心を育て、自他を尊重する態度を身に付け、人権感覚を獲得していく。</p>	<p>第6学年</p> <p>体験学習の充実・・・「委員会活動」「クラブ活動」「なかよし活動」「運動会」等の異年齢集団での活動を通して、他者の豊かに関わられるようにすると共に、最高学年として主体的に取り組む児童の育成を図る。</p> <p>確かな人権感覚・意識の育成・・・道徳、日常生活などを通して、善悪の判断をつけたり、成功体験を積み重ねたりする。</p>
<p>個別支援級</p> <p>体験学習の充実・・・宿泊体験学習で集団での役割を果たすことや、規律を守ることを通して社会性や実践力を身に付けていくようにする。</p> <p>(1) 日々の生活の中から自分たちの課題となる事柄について話し合いをもち、よりよい自分やみんなの姿について考える。</p> <p>(2) 定期的に誕生日会を開き、お互いの成長を喜び合うと共に、仲間意識を深めるようにする。</p>	

- (3)「街カフェ」や「マラソン大会」などの地域行事に進んで参加し、学習の成果を多くの方に理解してもらう。
- (4)Y-P アセスメントをもとに、個々の自尊感情を高められる学習設定を個別の教育支援計画などで工夫する。
- (5) レインボー給食やスイートポテトのプレゼントなどで望ましい他者との関わり方を身に付けるようにする。
- (6)YICA で特にあいさつのやりとりを大切にしながら、異文化への理解と親しみをもつ。
- (7)読み聞かせを通して感想を交流し、互いの気づきを受容し合い豊かな情操を育む。
- (8)栽培活動を通して、自然の大切さや協力者の方々への感謝の気持ちを醸成するとともに、収穫した作物を調理し食してもらい、地域・家庭・学校内のより良い関係を築く。

音楽科

豊かな感性や情操の育成

〈音楽朝会〉

- ・毎月のねらいを考えて全校児童が歌いやすい楽曲を選曲し、全校児童の声を響かせ合うことで歌を歌うことのよさを感じ取ることができるようにする。
- ・全学年が全校児童の前で発表する機会を設け、他学年のよさを認め合う場となるようにする。

〈緑園音楽祭〉

- ・スローガンからクラスのためを決めて取り組むようにする。
- ・歌声や楽器の音色を一つにして音楽を楽しむことから、クラス・学年全員の心を一つにすることで感じる達成感や充実感を体感できるようにする。

算数少人数

学級または少人数教室で、自分の考えを整理し、相手に伝えるための表現を工夫することができるようにする。互いの考えを交換し合い、様々な考えを受け止めて理解を深め合う学習ができるようにする。

保健

けがOプロジェクトによる児童主体の豊かな心作りの活性化

〈保健集会及びその後の代表委員会〉

第1回学校保健委員会の内容を児童保健委員会が劇にして全校に伝える。保健集会劇を見た後にクラスの取り組みを考える。その日に行われる代表委員会では、全校での取り組みについて各委員会が協力できる活動を考え、10月の委員会で各委員会の取り組みを決定する。

〈緑園子ども会議（第2回学校保健委員会）〉

けがOプロジェクトの振り返りから、人権週間の取り組みにつなげていく活動について話し合い、運営委員会と連携して進めていく。

給食

毎日のぱくぱくだよりや児童が取り組んでいるバランスイーナカードにより、日本の伝統食と食文化を理解させたい。食教育の充実を目指し、健康な体作りや生活の形式ができるようにする。

給食委員会の児童が主体となって、毎日の残量を減らす取り組みとして各クラス〈ラーメンランチ〉の完成を目指し健康な体作りに取り組めるようにする。

けがOプロジェクトを核として、第2回学校保健委員会の内容を給食とからめて、全校で取り組めるように提案していきたい。